

令和4年度 第3回 宗谷管内学力保障会議

目的 宗谷学力保障プラン3つの柱の総括評価の検証を行い、今後の対応策の共通理解を図る。
開催日 令和5年2月21日(火) 10:00~12:00 方法 Web会議システム(ZOOM)
参加者 ・宗谷管内市町村教育委員会教育長 ・宗谷校長会 ・稚内市校長会
・北海道高等学校長協会道北支部 ・小・中学校教頭、主幹教諭(研修) ・宗谷教育局

【挨拶】

宗谷教育局次長 菅野 泰之

- ・Sサポートや3つの柱の総括評価の結果から、今年度の成果と課題について協議し、「子どもの未来保障」の実現に向けた年度末、年度始めに実行する具体的な取組について共通理解を図りたい。
- ・管内全ての学校等において、児童生徒が夢の実現へ挑戦する力を育むために、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けたICTの効果的な活用を推進し、計画的・系統的な教員育成の取組を一層充実していただきたい。



【説明】

宗谷教育局教育支援課義務教育指導班主査 中山 智洋



- 令和4年度「宗谷管内学力保障プラン3つの柱」に基づく評価
 - ・①「検証改善サイクルの確立」、②「授業改革の推進」、③「学習習慣、生活習慣の確立」における目標指標の達成状況と改善の方向性について
 - ・令和5年度宗谷管内教育推進の重点項目との関連について

協議 1

今年度の成果と課題について

- ・今年度の成果と課題の受け止めと市町村・学校としての対応策に係る意見交換

- ・授業改善推進チームを軸とした授業交流、ICTを効果的に活用した授業実践をとおして、授業改革の推進が図られた。
- ・教頭、主幹教諭が中心となり、児童生徒の資質・能力を高めるための組織的な検証改善サイクルの確立に向けた取組が一層推進された。
- ・成果が表れた学校の特徴としては、生徒指導と教科指導の両輪が確立し、児童生徒と教師との信頼関係の下、一人一人の学習状況に応じたきめ細かな授業を行っている。
- ・授業が「分かる」が、定着が図られていない児童生徒に対する支援が必要である。1単位時間の中で振り返りの時間を確保し、学びを実感させること、授業の中で児童生徒が自分の考えを表現する(アウトプットする)場を意図的に設定すること、家庭学習を充実させ、繰り返し学び直す手立てを講じることなどが大切である。
- ・保護者、地域と連携した望ましい家庭学習習慣、生活習慣の確立が必要である。
- ・身に付けさせる資質・能力を明確にし、12年間継続した学力保障を行い、自ら学ぶ力を育成する必要がある。

協議 2

「総括指標を達成するための方策」について

- ・年度末、年度始めにどのような取組を推進するののかについての意見交換

- ・3層に対応した学力保障のために、児童生徒の学習内容の定着状況を的確に把握し、定着が不十分な内容については、今年度中に学び直しをやり切ることが重要である。
- ・ICTを活用した家庭学習による「個別最適な学び」の実現や公設塾等、地域にある学びの場と学校の連携が必要であり、12年間の学びの積み上げが大切である。
- ・教頭を中心に、教師が主体的に客観的データに基づいた検証改善サイクルの実行、児童生徒に寄り添った授業改革の推進を図ることができる組織の継続が大切である。
- ・各種調査結果をどのように分析するのかが重要であり、家庭と地域の協力体制を整え、児童生徒の学力保障を行うことが大切である。

【まとめ～学校・家庭・地域・行政が一体となった学力保障へ向けて～】 宗谷教育局教育支援課長 千代 隆志

- ☆学校課題を分析し、重点を明確にした検証改善サイクルの確実な実行
- 校長のグランドデザインを具現化する教育課程の編成・実施が重要
- ☆ICTを効果的に活用した授業改革の一層の推進
- ☆望ましい学習習慣の確立へ向けた地域・家庭との連携体制の構築



担当者から

「学力保障プラン3つの柱」の目標指標の達成状況から明らかとなった今年度の成果と課題について共有を図りました。12年間継続した学びの積み上げのための校種間連携、学びを実感させる振り返りの確保、「分かった、できた」を確実に定着させる家庭と協働した家庭学習の充実等、「ALL SOYA」で取り組む子どもの未来保障の一層の充実をお願いします。(義務教育指導班主査 中山 智洋)